

妹の「生き抜く力」

「お姉ちゃん、お願いがあるんだけど…」

私が小学校四年生、妹が二年生の春、めずらしく妹が真面目な顔で話しかけてきた。内容は、妹には左手に障がいがあり左手がない。新しく入った一年生の子からジロジロ見られたり、ヒソヒソ言われたりする事が嫌だ、というものだった。

妹は一年生の時、全校生徒の前に出て校長先生から左手の障がいの事を説明してもらっていた。そのことにより、妹の左手のことを知らない生徒はほぼいなかった。新学年になり、新一年生は妹の障がいを知らないのでジロジロ見してしまう。当たり前だと思う。私も体の一部がない人を見かけたら一瞬でも「あれっ」と思い、見てしまおうだろう。妹は自分の障がい知らない一年生の子から見られることをとでもつらく思っていたそうだった。二年生になっても校長先生からの説明はしてもらったことになってはいたが、その時点ではまだされていなかった。

妹から話を聞き、私はその日のうちに、自分の担任の先生に伝えた。すると校長先生へ話がいき、すぐ全校集会を開いて妹の説明をして下さった。それからの妹は一年生の頃と同様に楽しく通っていた。校長先生からの説明も毎年春になり、新一年生が学校生活に慣れた頃行ってもらっていた。

私は妹が毎日楽しそうに通学していたので左手のことをジロジロ見られても気にしていないのだろうと思っていた。しかし、そんなことはなく悲しい思いを私に打ち明けてくれた。校長先生にお話をしてもらったことで、妹は楽しい学校生活を送ることができたのだろう。そんな妹も五年生。今年からは何を言われても自分で説明する、と言って、校長先生には説明してもらっていないそうだった。

まわりの人に自分の事を知ってもらおう事、

誰かに助けを求めることができる事、

誰かのために行動できる事

「生きぬく力」とは何か彼女の姿から学んだ。